特集 日本建築文化の再発見～外国人の目から見た日本～

2023年３月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画（第２期）」において、建築とそれを取り巻く景観や建築技術など、建築文化の振興に関する施策が初めて掲げられ、その中で、取り組むべき重要施策として、「建築文化の振興を図るため、後世に継承すべき近現代建築の保存・活用の在り方」の検討などが示されました。

また、文化庁に設置された「建築文化に関する検討会議」では、2023年５月に建築文化の振興に必要な考え方として、「我が国の建築・景観にも、資産・ストックとしてインバウンド観光促進に資するポテンシャルがある」ことなどが挙げられました。

日本国内でそのような動きがある一方、アメリカの『The New York Times（ニューヨーク・タイムズ）』は、2024年１月、2024年に行くべき52ヵ所の３番目に「山口市」を選出しました。前年取り上げられた盛岡市に続いて、日本の地方都市が選ばれたことからも、大都市にはない日本らしさが海外から評価されているといえます。

年間訪日外客数は、2023年には、コロナ禍前の８割程度まで回復し、引き続き増加傾向にあります。訪日外国人消費動向調査（観光庁）によると、訪日観光において、日本食や日本のお酒を楽しむほかに、美術館や博物館等の訪問、日本の歴史・伝統文化体験などを行う割合が高く、建築文化を含めた文化芸術や歴史・伝統に魅力を感じている人が多いことが窺える結果になっています。

これらの動きや結果を受け、本号では、日本に在留する外国人から見た建築・都市・景観の魅力、海外からの来訪者が日本の建築に抱く魅力や可能性、日本の文化に魅せられ、それを支える外国人の想いなどから、暮らしぶり等を含めた日本建築文化の素晴らしさを再発見する機会としていただきたいと思います。